

年 組 名前：

動植物が危機にひんしている。世界の科学者らでつくる国際自然保護連合（IUCN）が7月発表した絶滅危惧種に関する「レッドリスト」は、調査した約12万種の27%、3万2441種に絶滅の恐れがあると指摘した。これまでに存在が知られている種は約214万。魚類や植物などはまだ調査が不十分で、今後より多くの種の危機が明らかになる可能性がある。

インド洋の島国モーリシャス沖で起きた日本の貨物船の重油流出事故では、固有の野

世界が見える

～27～

鳥やウミガメなど生態系への影響が懸念される。汚染はサンゴ礁にも及んでいる。造礁サンゴは地球温暖化の影響を受けやすく、30%超の種に絶滅の恐れがある。

3万種超が絶滅恐れ

## 希少種 高額で取引／監視手薄 密猟が増加

ペット需要の過熱も個体数減少に拍車を掛ける。絶滅の恐れがある生物はワシントン条約で国際取引が規制されているが、希少動物は高額取引され、珍しいサルなどの密輸事件は日本でも後を絶たない。野生動物取引監視団体「トラフィック」（東京）による2017年の調査では、国内で売られていた爬虫類606種のうち215種が同条

約「付属書2」の規制対象だった。世界で最も絶滅危惧種が多いアフリカのマダガスカル。国際自然保護連合（IUCN）によると、107種のキツネザルが生息するが、農地・鉱山開発を背景に103種が絶滅の危機にひんしている。世界全体では、調査された種の数に対する割合として哺乳類の22%、鳥類の13.3%、両生類の33%の種が絶

滅危惧の状態にある。

新型コロナウイルス禍に伴う各国経済の悪化で、保護プロジェクトも滞る。監視が手薄になり、アフリカのウガンダ当局者は2～6月の同国内での密猟件数が昨年同期の倍以上に増えたと指摘。IUCNなどによると、密猟の増加はコンゴ（旧ザイール）やナミビア、ケニア、南アフリカでも報告された。

（2020年12月7日付 山梨日日新聞7面）

問1 7月に発表された動植物などの絶滅危惧種に関する「レッドリスト」は、調査した12万種のうち、「①%」、「②種」に絶滅の恐れがあると指摘しています。①、②に入る数字は何ですか。

① 「      %」    ② 「      種」

問2 哺乳類、鳥類、両生類について、絶滅危惧種の割合が多い順に並べてください。

「                      」 → 「                      」 → 「                      」

問3 動植物などの個体数が減少している要因をいくつか挙げてください。

.....

.....